

第4次 安城市子供読書活動推進計画

[令和3年度～令和7年度]

すべての子供たちに届けたい・・・本は未来への道しるべ



令和3年3月

愛知県安城市

はじめに

「子どもの読書活動の推進に関する法律（平成13年法律第154号）」では、子供の読書活動について、「子どもが、言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、創造力を豊かなものにし、人生をより深く生きる力を身に付けていく上で欠くことのできないものである」としています。

しかしながら、情報社会の現代においては、ICT（情報通信技術）の進歩により、パソコンやスマートフォン、タブレット端末等が身近な存在となり、子供たちにとって魅力的で様々な情報が容易に手に入るようになりました。また、勉強や課外活動など子供を取り巻く生活環境は多様化、多忙化する中で、子供たちの「読書離れ」「活字離れ」の傾向が指摘されています。

このような状況の中、子供たちの豊かな成長のために、家庭、地域、図書館、学校等が相互に連携を図りながら、子供たちの読書意欲を喚起し、全ての子供が自主的に読書活動を行うことができる社会環境を整備する必要があります。特に、言葉で成立している「本」は、読書習慣をつけることにより、語彙力や共感力を育み、子供たちのコミュニケーション能力の向上に果たす役割が大いに期待できると考えます。

本市では、このような環境づくりをするため、「安城市子ども読書活動推進計画」（第1次、第2次、第3次）により、平成18年度から組織的、計画的に取り組んでまいりました。特に、平成29年6月、アンフォーレのオープンを機に学校図書館との連携を強化したことにより、子供たちの読書環境、学習環境は大きく前進しました。

この度、国の第四次基本計画（平成30年4月）及び「愛知県子供読書活動推進計画（第四次）」（平成31年2月）に基づき、本市における子供の読書活動のこれまでの成果や課題を整理し、今後5年間にわたる基本的な方針と具体的な施策を定めた「第4次安城市子供読書活動推進計画」を策定し、更なる子供の読書環境の整備と充実に努めていきます。

目 次

はじめに

第1章 第4次推進計画の策定にあたって	1
1 計画策定の背景と趣旨	1
（1）国及び愛知県の動向と策定の趣旨	
（2）計画の法的根拠	
（3）計画の位置づけ	
（4）計画の期間	
2 第3次推進計画期間における成果と課題	4
（1）主な成果（令和元年度末現在）	
（2）主な課題（令和元年度末現在）	
（3）目標指標（20指標）による進捗状況（令和元年度末現在）	
第2章 第4次推進計画の基本的方針	7
1 基本理念	7
2 3つの基本方針と8つの施策、24の取組	9
第3章 第4次推進計画における具体的施策	11
基本方針1 家庭、図書館、学校等における読書活動の推進	11
施策（1）「 ^{うちどく} 家読」の推進	11
施策（2）図書館等（図書館情報館・公民館図書室・あんば〜く・ KEYPORT・あんステップ [♪] ）における読書活動の推進	12
施策（3）学校等（小中学校、保育園・認定こども園、サルビア学園、 児童クラブ）における読書活動の推進	17
基本方針2 読書環境の整備、関係機関等との連携・協力体制の整備	19
施策（4）図書館等の環境整備	19
施策（5）学校図書館（小中学校）の環境整備	21
施策（6）関係機関・団体との連携・協働	21

基本方針 3 読書活動を支える人材の育成	2 3
--------------------------------	-----

施策（7）保護者、読み聞かせボランティア等の読書に対する 意識の向上 . . .	2 3
---	-----

施策（8）学校司書等の継続と図書館情報館職員の育成	2 4
-------------------------------------	-----

第 4 章 第 4 次推進計画の推進体制と進捗管理	2 6
-------------------------------------	-----

1 計画の推進体制	
-----------	--

2 計画の進捗管理	
-----------	--

参考資料

1 計画策定までの経緯	2 7
-----------------------	-----

2 SDGsと第 4 次推進計画	2 7
----------------------------	-----

3 第 3 次安城市子ども読書活動推進計画【進捗状況(令和元年度末現在)】 .	2 8
---	-----

4 用語解説	3 0
------------------	-----

第1章 第4次推進計画の策定にあたって

1 計画策定の背景と趣旨

(1) 国及び愛知県の動向と策定の趣旨

- 平成13年12月に「子どもの読書活動の推進に関する法律」が施行され、全ての子供が自主的に読書活動ができるよう、環境の整備を推進することが基本理念としてうたわれました。また、同法第9条第1項で都道府県が、さらに、第2項では市町村が子ども読書活動推進計画を策定するよう努めなければならないと規定されました。

なお、子どもとは「おおむね十八歳以下の者」としています。

- 国は、平成14年8月に「子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画」（以下、「基本計画」という。）を策定しました。その後、子供の読書活動を取り巻く状況の変化等を踏まえ、平成20年3月に第二次基本計画、平成25年5月には第三次基本計画、平成30年4月に第四次基本計画を策定しました。
- 愛知県は、全ての子供が自主的に読書活動ができるよう、平成16年3月に「愛知県子ども読書活動推進計画」を、平成21年9月に「愛知県子ども読書活動推進計画（第二次）」、平成26年3月には「愛知県子ども読書活動推進計画（第三次）」さらに、平成31年2月には「愛知県子供読書活動推進計画（第四次）」を策定しました。
- 本市では、全ての子供に本の楽しさと出会いの場を提供し、子供の発達段階に応じた読書活動の推進と読書環境の整備を計画的に行うよう、平成18年6月に「安城市子ども読書活動推進計画」、平成23年3月に「第2次安城市子ども読書活動推進計画」さらに、平成28年3月には「第3次安城市子ども読書活動推進計画（以下、「第3次推進計画」という。）を策定して取組を進めてきました。

そして、国の第四次基本計画及び「愛知県子供読書活動推進計画（第四次）」に基づき、本市における子供の読書活動のこれまでの成果や課題等を検証し、実情を踏まえた「第4次安城市子供読書活動推進計画」（以下、「第4次推進計画」という。）を、ここに策定します。

（２）計画の法的根拠

- この第４次推進計画は、「子どもの読書活動の推進に関する法律」第９条第２項の規定に基づき、「当該市町村における子どもの読書活動の推進に関する施策についての計画」として策定します。

（３）計画の位置づけ

- 本計画は、平成２８年３月に策定した「第３次安城市子ども読書活動推進計画」の後継計画であり、安城市総合計画の個別計画として位置づけられています。また、本市の教育行政を推進するための基本方針を定めた「安城市教育大綱」に関連する基本計画です。

なお、本計画の推進にあたっては、「安城市図書館運営基本計画（令和２年３月）のほか、第４次安城市生涯学習推進計画（令和３年３月）との連携を十分に図るものとします。



(4) 計画の期間

○ 令和3年度から令和7年度までの5年間とします。

計画	年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	
安城市総合計画		第8次(8年間) 後期計画							第9次		
安城市教育大綱		第1次(4年間)			第2次(4年間)				第3次		
生涯学習推進計画		第3次(5年間)				第4次(5年間)					
図書館運営基本計画 (アンフォーレ課)		図書館情報館 オープン		策定準備	(10年間)				中間見直し		
子供読書活動推進計画 (アンフォーレ課)		第3次(5年間)				第4次(5年間)					

2 第3次推進計画期間における成果と課題

本市の第3次推進計画では、子供の読書活動を具体的に推進していくために、基本理念を「読書を通じて子どもの豊かな心を育み健やかな成長を目指します」とし、次の3つの基本目標を設けて、これを達成するため、それぞれの方策を示しました。その主な成果及び課題は次のとおりです。

第3次推進計画における3つの基本目標

- 基本目標1：家庭・地域、図書館、学校等における読書活動の推進
- 基本目標2：読書環境の整備、関係機関等との連携・協力体制の整備
- 基本目標3：読書活動を支える人材の育成

(1) 主な成果（令和元年度末現在）

平成29年6月にアンフォーレ本館内に図書情報館が開館しました。2階を子供のフロア、3階には主にYA世代を対象とした「らBooks」※1コーナーを配置し、資料や設備を充実させました。その結果、主な成果は下記のとおり9項目です。



① 図書情報館では、蔵書数、貸出冊数ともに目標値を上回り利用が増加

目標指標⑩	平成27年度	令和元年度	目標(令和2年度)
児童書※2の蔵書数	218,436冊	249,464冊	238,000冊
児童書の貸出冊数	708,895冊	733,453冊	720,000冊

② 平成29年度より、学校連携の強化（システム連携・配送・学校司書等の配置）により団体貸出冊数の増加

目標指標⑪	平成27年度	令和元年度	目標(令和2年度)
小学校への団体貸出利用冊数	33,447冊	114,708冊	50,000冊
中学校への団体貸出利用冊数	497冊	20,210冊	1,000冊

③ 学校司書※3・図書館教育アドバイザー※4配置により学校図書館の環境の充実（目標指標⑨）

④ ICT化により、読書通帳※5、電子書籍※6、デジタル絵本※7、からくりBooks※8導入による読書環境の充実（目標指標⑨）

⑤ 新規おはなし会5事業立ち上げによるおはなし会の充実と参加人数の増加

目標指標③	平成27年度	令和元年度	目標(令和2年度)
図書館での「おはなし会」の参加人数	3,483人	4,914人	3,700人

⑥ フロアワーク^{※9}を積極的に行ったことによるレファレンスサービス^{※10}件数の増加

目標指標⑤	平成27年度	令和元年度	目標(令和2年度)
レファレンスサービスの件数	1,205件	4,944件	1,600件

⑦ 乳幼児教室、家庭教育学級、パパママ教室、赤ちゃんサロン、児童センターでの講座、まちかど講座等他課との連携による事業の実施

目標指標⑩	平成27年度	令和元年度	目標(令和2年度)
関係機関との連携による事業数	12事業	15事業	12事業

⑧ 第2回安城市新美南吉絵本大賞の実施、大賞受賞作品『かにのしょうばい』の発行及び「南吉出前授業」の実施

目標指標⑧	平成27年度	令和元年度	目標(令和2年度)
「南吉出前授業」の開催回数	7回	8回	8回

⑨ 特筆すべき成果

第3次推進計画には記載はありませんが、地域文化の創出と中心市街地活性化を目指すアンフォーレの役割を果たすため、ホールを会場とした、子供向けコンサート、演劇、講演会等を開催しました。また、健康支援室・講座室等を会場とし、工作教室、けん玉・お手玉教室、ロボットプログラミング教室、サイエンスショーなど、今まで図書館で取り組んだことのない新しい分野のイベントも実施しました。いずれも市内外からの参加者で賑わい、定例のイベントとして継続しています。



(2) 主な課題（令和元年度末現在）

しかしながら、下記のとおり課題も明らかになりました。

① 読み聞かせボランティアの会員数の減少

目標指標⑰	平成27年度	令和元年度	目標(令和2年度)
図書館に登録されている読書グループ・読み聞かせボランティアグループの会員数	330人	234人	370人

② 保育園・幼稚園への「出前おはなし会」の開催回数の減少

目標指標⑦	平成27年度	令和元年度	目標(令和2年度)
保育園・幼稚園での「出前おはなし会」の開催回数	510回	295回	550回

③ その他

第3次推進計画期間中に明らかになった課題として、発達段階においては、乳幼児から中学生までの子供たちを対象とした事業が多く、高校生向けの事業が不十分であることが挙げられます。また、不登校や長期入院等により来館できない子供たちや外国にルーツを持つ子供たちへの事業も今後考える必要があると思われます。

(3) 目標指標（20指標）による進捗状況（令和元年度末現在）

目標達成	11指標	55%
未達成だが計画策定時より改善	4指標	20%
計画策定時より後退	5指標	25%

詳細については、参考資料P28「第3次安城市子ども読書活動推進計画【進捗状況（令和元年度末現在）】」に掲載しています。

第2章 第4次推進計画の基本的方針

1 基本理念

○ 国は、第四次基本計画の中で、第三次基本計画期間における課題として、小中学生の不読率は、中長期的には改善傾向にあるが、高校生の不読率は依然として高く、第三次基本計画で目標とした進度での改善は図られていないことを挙げています。それを受けて第四次基本計画では、発達段階に応じた取組により、読書習慣を形成すること、友人同士で行う活動等を通じ、読書への関心を高めることを基本的な方策としています。

○ 愛知県は、「愛知県子供読書活動推進計画（第四次）」の中で、今後取り組むべき主な課題として、読書習慣定着の促進、高校生の不読率の改善、身近に本のある環境の整備を挙げています。

そして、基本理念を「未来へつなぐ、いつも本のある暮らし」とし、家庭、地域、学校等における取組では、それぞれの場所において発達段階に応じて、子供が読書に親しむ習慣の定着を図ること、及び子供の読書活動の意義や重要性を県民に周知するとともに、子供の読書活動に携わる機関・団体が緊密に連携・協力し、本に親しむ環境づくりを進めることを目標としています。

○ 本市の第4次推進計画は、第3次推進計画の成果を今後も継続できる体制を整えるとともに、第3次計画期間中に明らかとなった課題である、読み聞かせボランティアの会員数の減少や保育園・幼稚園での「出前おはなし会」の開催回数の減少、不登校や長期入院等により来館できない子供達への支援等への対策、また、国及び県が課題として掲げる高校生の不読率の改善も視野に入れる必要があります。

いずれも、子供の発達段階をよく理解し、その子供の年齢にふさわしい取組を実施し、読書に親しむ習慣の定着を図ることを目指します。

また、民間事業者や社会貢献をめざすボランティアとの協働は、子供の読書を推進するための大きな力となるため、公民連携の視点を考慮し、推進していく必要があります。

このため本計画では、

すべての子供たちに届けたい・・・本は未来への道しるべ

を基本理念とします。

この基本理念は、図書館のサービスが今まで十分に届いていなかった子供たちを含めた「すべての子供」に読書の楽しさや喜びを届けるために掲げた理念です。この理念を実現するために、上位計画である国の第四次計画及び「愛知県子供読書活動推進計画（第四次）」を参考に、本市の実情と第3次推進計画期間における成果と課題を踏まえて、3つの基本方針と8つの施策、24の取組を推進していきます。

なお、令和2年度は、新型コロナウイルス感染症により図書館等の利用が大きく制限されました。また、各種の事業、イベントも中止を余儀なくされました。今後もこのような事態が発生することを念頭に置き、感染拡大を防ぐため、国が公表した「新しい生活様式」の実践例（令和2年6月19日公表）や、日本図書館協会のガイドライン（令和2年5月14日公表）等を踏まえたサービス、事業、イベントを実施していきます。



2 3つの基本方針と8つの施策、24の取組

基本理念を実現するために「ソフト」「環境」「人材」の分野別の3つの基本方針、8つの施策とそれぞれの具体的な24の取組を定めます。

基本方針1 家庭、図書館、学校等における読書活動の推進

家庭・地域、図書館、学校等が、それぞれの役割を果たし、子供が読書に親しむ機会の充実を図り、子供の自主的な読書活動に向けた取組を推進します。

ソフト

施策(1)「^{うちどく}家読」※¹¹の推進

- ① 児童書の貸出の推進
- ② 新たな安城版ブックスタート※¹²事業の実施

施策(2) 図書館等（図書情報館・公民館図書室・あんば〜く・

KEYPORT・あんステップ）における読書活動の推進

- ③ 乳幼児を対象とした事業の充実
- ④ 小学生を対象とした事業の充実
- ⑤ 中学生・高校生を対象とした事業の拡充
- ⑥ 来館が困難な子供たち、外国にルーツを持つ子供たちへの事業の実施
- ⑦ レファレンスサービスの充実
- ⑧ 子供が求める資料に容易に出会える排架※¹³の充実
- ⑨ 新美南吉の顕彰活動の推進

施策(3) 学校等（小中学校、保育園・認定こども園、サルビア学園、

児童クラブ）における読書活動の推進

- ⑩ 学校での読書活動の推進
- ⑪ 保育園・認定こども園、サルビア学園での読書活動の推進
- ⑫ 児童クラブでの読書活動の推進

基本方針 2 読書環境の整備、関係機関等との連携・協力体制の整備

乳幼児期から発達段階に応じて、子供が本に興味を持てるような読書環境の整備・充実を進め、社会全体で読書に親しむ機会の提供に努めるとともに、関係機関・団体の連携・協力体制の整備を進めます。

環境

施策（４）図書館等の環境整備

- ⑬ 児童書の充実
- ⑭ 幅広い外国語の図書資料の充実
- ⑮ 「らぶつくす」^{らぶつくす}の充実
- ⑯ ICTの利用促進

施策（５）学校図書館（小中学校）の環境整備

- ⑰ 図書標準※¹⁴全校達成の維持

施策（６）関係機関・団体との連携・協働

- ⑱ 学校図書館との連携の充実
- ⑲ 市役所関係各課との連携の充実
- ⑳ 読み聞かせボランティア等との協働

基本方針 3 読書活動を支える人材の育成

子供の読書活動を推進するためには、子供の最も身近な存在である保護者の意識向上に努めるとともに、読書活動を支えるボランティア、学校司書、図書情報館職員等の人材を育成することが必要です。

人材

施策（７）保護者、読み聞かせボランティア等の読書に対する意識の向上

- ㉑ 保護者向け講座の充実
- ㉒ 読み聞かせボランティア等の養成とスキルアップの支援

施策（８）学校司書等の継続と図書情報館職員の育成

- ㉓ 学校司書の全校配置と図書館教育アドバイザーの配置
- ㉔ 図書情報館職員のスキルアップのための研修

第3章 第4次推進計画における具体的施策

基本方針1 家庭、図書館、学校等における読書活動の推進

施策(1)「^{うちどく}家読」の推進

① 児童書の貸出の推進

子供が本に興味や関心を持ち、読書の喜びを体験するには家庭の果たすべき役割は大きなものです。特に乳幼児期は保護者からの積極的な働きかけにより、子供は言語を獲得し、想像力を伸ばし始めます。そして、家庭の中で読み聞かせや本を媒介とした会話や遊びを繰り返すことにより読書習慣が形成されます。



家庭の中に常に本がある生活とするため児童書の貸出を推進します。

【目標指標】

指標名	現況(令和元年度)	目標(令和7年度)
児童書の個人貸出冊数(単年度)	733,453冊	750,000冊

② 新たな安城版ブックスタート事業の実施

子供の読書の重要性を保護者一人一人に丁寧に伝え、「家読」の習慣を育てるため、安城版ブックスタート事業を継続します。

平成25年8月から開始された安城版ブックスタート事業は、保健センターの4か月児健診時に、読み聞かせの実演とともに、その意義や重要性を一人一人の保護者の方に伝え、我が子に最適な赤ちゃん向け絵本を4冊の中から1冊を選んでいただき、南吉絵本と一緒に配付する事業です。



令和2年度に行ったアンケートでは「絵本を読んだ時の子供の様子が見られてよかった」「赤ちゃんが絵本に関心を示すことが分かった」「子供とのコミュニケーションに役立ちそうと感じた」等に多くの方が賛同しており、大変好評な事業となっています。

なお、配付する南吉絵本は、本市が主催する「安城市新美南吉絵本大賞」の大賞

作品です。令和5年度には、第3回安城市新美南吉絵本大賞の大賞作品を新たに出版、配付します。赤ちゃん向け絵本に加えて、新美南吉作品の絵本を配付することで、郷土にゆかりの童話作家新美南吉の顕彰を図るとともに、保護者の方へのブックスタートの意味も込められています。

また、ブックスタート時には「赤ちゃんえほんかしだし隊」として、絵本の貸出や、赤ちゃんや保護者の方への利用者カードの発行、市内の子育て支援施設の案内等も行っています。

令和2年度は、新型コロナウイルス感染症により事業活動が大きく制限されました。今後は、国が公表した「新しい生活様式」等に合わせた事業の実施を目指します。

【目標指標】

指標名	現況(令和元年度)	目標(令和7年度)
「新しい生活様式」等に合わせた 安城版ブックスタートの実施	検討	実施

施策(2) 図書館等(図書館・公民館図書室・あんぱ〜く・KEYPORT・あんステップ)における読書活動の推進

③ 乳幼児を対象とした事業の充実

乳幼児と保護者に対して、読書活動への関心を高め、読書のきっかけを提供するために、乳幼児向けおはなし会を継続します。

図書館だけでなく、子供たちの身近な施設である公民館等でも読み聞かせボランティアによるおはなし会を継続していきます。



【目標指標】

指標名	現況(令和元年度)	目標(令和7年度)
図書館等での乳幼児向けおはなし会の 開催回数(単年度)	250回	290回

④ 小学生を対象とした事業の充実

小学生の年代は、本を一人で読めるようになり、自分の読みたい本を豊富な資料の中から自由に選び、読書の楽しさを知ることができる年代です。図書館は、そんな子供の自主性や個性を尊重しながら、その子にふさわしい本を手渡す重要な役割

を果たすため、さまざまな取り組みを実施します。

図書館では、絵本を読んでもらう「読み聞かせ」から、絵のない本を一人で読むことへのスムーズな移行を助けるため、耳からの読書を楽しめる「ネコ・ロンデ朗読会」を継続します。また、小学生の来館が増加する日曜日や夏休みには、「にちようびのおはなしかい」「夏休み毎日おはなし会」を開催し、子供たちが本に親しむきっかけ作りとします。



さらに、子供が本や図書館への関心を持つきっかけとなるような多様な事業に取り組みます。「でんでんむかしあそびの会」では、初対面の子供たちでも一緒に楽しく遊べるお手玉遊びを中心に、絵本の読み聞かせや紙芝居など行い、同世代の子供と同じ楽しみを共有する機会を提供します。また、お気に入りのぬいぐるみとともに図書館や読書を楽しむ「ぬいぐるみのおとまり会」は人気の事業として定着しています。

今後もこれらの事業を継続するとともに、アンフォーレ指定管理者^{※15}と連携した子供向けの読書に関する事業や、アイデアを駆使した新しい事業の拡充を図ります。また、子供の自主的な読書や学習を支援するため、各種リストやパスファインダー^{※16}の作成、テーマ展示等も継続します。

【目標指標】

指標名	現況(令和元年度)	目標(令和7年度)
図書館での小学生向け事業数(単年度)	7事業	10事業

⑤ 中学生・高校生を対象とした事業の拡充

中学生、高校生の年代には、自身の将来を視野に入れた自主的、意欲的な読書活動や主体的な学習活動を支援することが重要です。

毎日新聞東京本社発行の『読書世論調査』（2019年版）では、1か月に1冊も本（教科書・漫画・雑誌を除く）を読まない中学生は、ここ10年ほどは15%前後で推移していますが、高校生になると、50%前後となり、読書から遠ざかる傾向が続いています。一方、スマートフォンの所有、利用状況は年々増加しており、コミュニケーションや情報収集の方法が大きく変化していることが分かります。

図書館では、「らBooks」の一つのジャンルとして「YA」（ヤングアダルト向け）を設け、この年代の興味・関心に合わせた図書を配置しています。蔵書回転

率（貸出冊数÷開架蔵書数）は一般書が3.2回転のところ4.2回転、「らBooks」全体では7.0回転と大変高い利用となっています。また、今後もさらに貸出を促進するため、中高生に向けた図書の展示「らぶフェス」等を継続します。

学校図書館との連携については、市内小中学校との連携は強化されましたが、高校とは「らBooks」の新刊案内を送付するに留まっています。今後もこれを継続するとともに、新たな連携方法を検討します。



また、本を介した交流や居場所としての利用を進めるため、図書情報館3階ディスカッションコーナーを中心として、マナーを守った上での会話・飲食ができる環境を継続します。

内閣府政策統括官主催の「令和元年度青少年のインターネット利用環境実態調査」調査結果（速報）（令和2年3月）によれば、インターネットの一日の平均利用時間は、中学生では176分、高校生では248分と長時間に及びます。そこで、この世代に焦点を絞ったインターネットを利用した情報発信も検討します。

【目標指標】

指標名	現況(令和元年度)	目標(令和7年度)
市内高校との新たな連携	検討	実施

⑥ 来館が困難な子供たち、外国にルーツを持つ子供たちへの事業の実施

図書館のサービスは、市内在住の全ての子供たちに行うことが求められます。

平成29年度より市内の小中学校との連携を強化したことにより、子供たちの読書環境、学習環境は大きく改善されましたが、図書館等への来館や登校が困難な子供たちもいます。そこで、それらの子供たちにも読書の喜びと楽しみを届ける事業を新たに実施します。



市内には不登校児童・生徒のための「ふれあい学級」※17があります。ここへ図書情報館職員が定期的に出向き、読み聞かせやブックトークを行うとともに団体貸出を行う「アンフォーレがやってくる」事業を継続します。また、図書情報館を居場所とし、読書の機会を提供するため、グループ学習室を利用した「アンフォーレにいてくる」事業も継続します。

また、様々な楽しみから遠ざかりがちな長期入院の子供たちへ、安城更生病院、

八千代病院と協議し、サービスの検討を行います。

市内には外国にルーツを持つ子供たちが約1,600人（令和元年度末）います。それらの子供たちに向けて、日本語習得のための資料コーナーを図書情報館に新設するとともに、外国人向け子育てサロン等におけるやさしい日本語でのおはなし会の実施や、安城版ブックスタート事業における多言語パンフレットの配付を行います。また、「Anjo-info」やFacebookを活用した外国人親子への情報発信を検討します。

アンフォーレ本館では、毎年障害者福祉の啓発と推進を目的とした「あんぷくまつり」が開催されます。そこでは手話付きのおはなし会を実施し、障害を持つ子供たちに読書の楽しみを届けます。

【目標指標】

指標名	現況(令和元年度)	目標(令和7年度)
ふれあい学級へのサービス	検討	実施
長期入院の子供たちのためのサービス		
外国人向け子育てサロン等におけるやさしい日本語等を活用したおはなし会		
「あんぷくまつり」でのおはなし会		

⑦ レファレンスサービスの充実

図書情報館の職員は、受付で子供を待っているだけではなく、積極的にカウンターの外に出てフロアワークやレファレンスサービスに取り組みます。

図書館利用に不慣れな子供は、本の並び方や場所が分からない、事典等の引き方が分からない、宿題の調べ方や検索機の使い方が分からないなど、多くの悩みや不安を抱えていることがあります。職員は、子供の様子をよく観察し、干渉や押し付けにならないよう注意しながら、質問や疑問に耳を傾け、的確に回答し子供と本を結ぶ役割を果たします。



【目標指標】

指標名	現況(令和元年度)	目標(令和7年度)
レファレンスサービスの件数(単年度)	4,944件	5,200件

⑧ 子供が求める資料に容易に出会える排架の充実

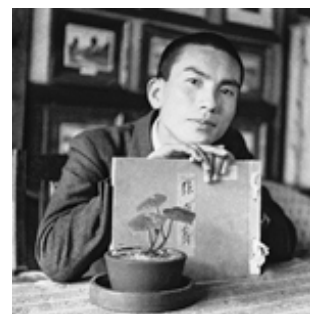
図書情報館では、子供が目指す本に出会えるように、本の並べ方に様々な工夫をしています。例えば絵本では、ノンフィクションの分野は内容によって分類番号を付与したり、「のりもの」「昔話」「クリスマス」など利用の多いテーマはコーナーを設けたりするなど、子供たちが興味を持つ図書へのアクセスを容易にしています。また、学校での授業内容に合致するように、教科書に載っている本を学年別にまとめています。



今後子供たちの生活環境や興味に合わせた排架を臨機応変に行い、利便性を高めます。

⑨ 新美南吉の顕彰活動の推進

童話「ごんぎつね」などで知られる新美南吉は、昭和13年4月に安城高等女学校の教師として安城に赴任しました。南吉が安城で過ごした5年間は、経済的、精神的に充実しており、代表作といわれる多くの作品を書いた時期でした。安城時代は南吉の短い生涯の中で最も輝いた青春時代と言えます。このことから、安城市では新美南吉を郷土ゆかりの童話作家とし、まちづくりや絵本大賞などを実施して顕彰しています。



そこで、小学生には新美南吉に親しんでもらうため、生い立ちや作品、本市との関わり等をテーマに授業を行う「南吉出前授業」を実施しています。今後もこれを継続し、南吉作品の更なる普及に努めます。

また、平成25年（市制60周年）より実施している「安城市新美南吉絵本大賞」は、新たな南吉絵本を全国公募し大賞を決める5年毎の事業です。大賞作品は販売するとともに、安城版ブックスタート事業において配付します。「安城」と「南吉」を全国に発信し続けることで、安城の地での新たな絵本作家の誕生と南吉作品の普及を推進します。

人間の心に深い理解と愛情を示した新美南吉の童話は、子供の心の成長の一助となります。図書ばかりでなく、からくりBooks『童話作家 新美南吉物語』も利用し、今後も子供たちに南吉の作品を手渡していきます。

【目標指標】

指標名	現況(令和元年度)	目標(令和7年度)
南吉出前授業の実施(単年度)	3校	3校以上

施策(3) 学校等(小中学校、保育園・認定こども園、サルビア学園、児童クラブ)における読書活動の推進

⑩ 学校での読書活動の推進

小学生、中学生の年代は、本を読む力をつけるとともに、読書の幅を広げたり、学習活動に図書を利用したりする機会が増える時期です。学校図書館は彼らの一番身近な図書館で、だれもが気軽に利用できる場所です。学校図書館では、子供たちの読書活動を推進するため、「朝の読書」※18



や「読書まつり」等を実施し、子供が図書に関心を持ち、将来の読書や情報収集、図書館利用のスキルを身に着ける環境を整えます。

また、本を一人で読むだけでなく、友達同士で本の楽しみを共有できるよう、読み聞かせボランティアによるおはなし会を継続していきます。

【目標指標】

指標名	現況(令和元年度)	目標(令和7年度)
学校図書館(小中学校)の貸出冊数(単年度)	301,882冊	310,000冊

⑪ 保育園・認定こども園、サルビア学園での読書活動の推進

子供にとって、一日の多くの時間を同年代の子供たちと過ごしている園での取組は、本と関わるよい機会となります。安城市立の各園においては、「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」「児童発達支援ガイドライン」に基づき、園での日々の生活の中で絵本や物語に親しむ活動を



推進します。そのため、平成23年度より行っている読み聞かせボランティアと図書館職員による「出前おはなし会」を今後も継続します。

令和元年度からは「政策支援サービス」※19として、市役所各課から予約された図書を届けるサービスを開始しました。このサービスを有効活用し、園にはない図

書を気軽に利用できる方法を検討します。

【目標指標】

指標名	現況(令和元年度)	目標(令和7年度)
「出前おはなし会」の開催回数(単年度)	151回	250回

※現況・目標の開催回数は、令和3年度当初に社会福祉法人安城市こども未来事業団に移管する14園を除いた、市立14園の取組みを対象とします。

⑫ 児童クラブでの読書活動の推進

児童クラブとは、保護者が仕事などで昼間家庭にいない小学校の児童を対象に、遊びや生活の場を提供し、その健全な育成を図る事業です。家庭的な雰囲気の中で友達と遊んだり、勉強タイムで宿題をしたりして、保護者が迎えに来るまで楽しく過ごします。



ここでは放課後児童支援員により、本に親しむ時間や取り組みを行っています。今後はさらに読書活動を充実させるため、夏休みに図書館による図書の定期配送を実施します。

【目標指標】

指標名	現況(令和元年度)	目標(令和7年度)
児童クラブへの夏休み配送貸出	検討	実施

基本方針２ 読書環境の整備、関係機関等との連携・協力体制の整備

施策（４）図書館等の環境整備

⑬ 児童書の充実

図書館資料を充実させることは図書館の根幹であり目的でもあります。特に子供を対象としたものは、蔵書冊数だけでなくその質が大切です。新鮮さを保ちながらも、読み継がれている良書は同じ本を多く揃え、子供たちの利用に常に応えられるようにしています。選定は収集方針に基づき、受付やフロアワーク、おはなし会での反応を加味しながら子供たちにふさわしいものを選んでいきます。現在、図書館情報館、公民館図書室等の開架には約17万冊の児童書がありますので、その内の6%程度にあたる約1万冊を毎年刷新します。選書担当者は、児童書に対する知識と見識を生かして適切な蔵書構成を目指します。



【目標指標】

指標名	現況(令和元年度)	目標(令和7年度)
児童書の購入冊数(単年度)	11,726冊	10,000冊以上

⑭ 幅広い外国語の図書資料の充実

本市には、7,699人（令和元年度末）の外国人が生活しています。国籍別の人口は、1位ブラジル、2位フィリピン、3位中国、4位ベトナム、5位韓国・朝鮮となっています。また、外国籍の子供の人口は、0歳～4歳が441人、5歳～9歳が417人、10歳～14歳が365人、15歳～19歳が379人となっています。



これらの子供たちが母国語での読書が楽しめるように、外国語の絵本、児童書を引き続き充実させます。また、これらの資料が十分活用されるように、関連機関や団体等へのPRにも努めます。

【目標指標】

指標名	現況(令和元年度)	目標(令和7年度)
外国語の児童書の蔵書冊数	2,292冊	2,500冊

⑮ 「らBooks」の充実

図書館には、ヤングアダルト向けを中心とした独自のジャンル「らBooks」があります。ヤングアダルト世代は、興味関心や娯楽が多岐にわたり、学習課題や将来への夢や不安を抱えているなどの特徴があります。また、本を図書館で借りるより個人で購入したり、友人から借りたりすることも多く、インターネット、SNS、動画などから様々な情報を入手しているという特徴があります。さらに、先に述べたように、高い不読率も懸念されます。



現在「らBooks」は、図書館に約2万冊あります。そのうちの8%程度を毎年刷新することで、彼らにとって魅力的であるとともに、潜在的な要求に応えられる図書資料を計画的に揃えます。

【目標指標】

指標名	現況(令和元年度)	目標(令和7年度)
「らBooks」の購入冊数(単年度)	1,534冊	1,500冊以上

⑯ ICTの利用促進

平成27年3月に策定された「安城市図書館 ICT化基本構想」に基づき、平成29年6月に図書館を開館しました。

図書館では、インターネット閲覧用のパソコンやタブレット端末の貸出、電子絵本や「からくりBooks」の導入、電子書籍の受入れをしました。これらの機器を適切に管理・更新し、電子ならではの良さを生かした資料を収集していきます。



また、借りた本の情報を記帳できる読書通帳機を導入し、貸出履歴を目に見える形にすることで、読書意欲を喚起し、読書習慣の促進を図っています。今後も子供たちの読書意欲が一層向上するよう、利用の多い公民館図書室への機器の設置を検討します。

現代の子供たちはWebサイトやSNSからも情報を入手しているため、図書館公式Webサイトの子供向けページの充実を図り、読書や本に関する情報発信の検討も行います。

さらに、市内全児童生徒に配付されるタブレット端末を活用した読書推進の取組を学校教育課とともに検討します。

【目標指標】

指標名	現況(令和元年度)	目標(令和7年度)
電子図書館へのログイン人数(18歳以下) (単年度)	151人	250人

※ログイン人数とは、単年度に電子図書館へ1回以上ログインがあった者の数

施策（５）学校図書館（小中学校）の環境整備

⑰ 「図書標準」全校達成の維持

平成25年度より学校司書を配置し環境整備を行った結果、全小中学校において、「図書標準」を達成しました。

学校図書館には、自由な読書活動の場である「読書センター」としての機能と、情報の収集・選択・活用能力を育成して、教育課程の展開に寄与する「学習・情報センター」としての機能が求められています。これらの機能を持たせていくために、今後も計画的な図書資料の受入れと除籍を行います。



【目標指標】

指標名	現況(令和元年度)	目標(令和7年度)
学校図書館の「図書標準」達成校	全小中学校	全小中学校

施策（６）関係機関・団体との連携・協働

⑱ 学校図書館との連携の充実

平成29年度より学校図書館支援室を設置し、学校図書館との連携を行っています。

公共図書館と各学校図書館の書誌データ※²⁰を統合し、学校図書館から公共図書館の資料を一括検索できるようにネットワーク化を行いました。各学校には、学校図書館システム端末2台と検索機が設置されています。



また、全小中学校29校に週2回図書情報館からの配送便が回るようにし、学校から依頼された本が早ければ翌日に届くようになりました。配送便で届ける図書は3種類あり、朝の読書や学級文庫で活用する「朝読便」、調べ学習のための「テーマ

便」、個別に予約された「きーぼー便」です。これにより、連携以前の平成28年度と令和元年度を比較すると、学校への団体貸出は小学校・中学校合わせて26,207冊から134,918冊となり5倍以上伸びました。

今後も学校図書館と連携し、迅速で的確な資料の提供と適切な機器の維持管理を行っていきます。

【目標指標】

指標名	現況(令和元年度)	目標(令和7年度)
学校(小中学校)への団体貸出冊数(単年度)	134,918冊	140,000冊

⑱ 市役所関係各課との連携の充実

子供の読書を推進するためには図書館だけでなく、積極的に市役所関係各課と連携を図り、よりきめ細かな子供の読書環境の充実に努めていくことが必要です。現在、子育て支援課とは保護者向け講座での講師派遣、子ども発達支援課や保育課とは出前おはなし会、健康推進課とは安城版ブックスタート事業の実施、学校教育課とは学校図書館連携、生涯学習課とは公民館図書室の運営など、様々な課との連携を行っています。



今後も引き続き、これらの課と連携を図るとともに、それ以外の課との連携の可能性を積極的に探り、全市的な子供読書活動推進に取り組んでいきます。

⑳ 読み聞かせボランティア等との協働

子供に本を手渡す大人は一人でも多いほうが効果的です。そのためには子供の本に精通した民間団体の協力も不可欠です。図書館では50年以上前から子供の本に関心を持った市民による読み聞かせボランティアを受け入れてきました。また、平成4年度から読み聞かせボランティア養成講座を実施し、子供の本について知識と見識を持つボランティアグループの活動を支援してきました。



今後もグループの活動を尊重するとともに、協働して子供の読書活動の充実に取り組んでいきます。

基本方針3 読書活動を支える人材の育成

施策（7）保護者、読み聞かせボランティア等の読書に対する意識の向上

⑪ 保護者向け講座の充実

子供の読書習慣を定着させるには、最も身近な存在である保護者が、積極的に子供の読書活動に関わっていくことが重要です。



図書館において、乳幼児の保護者を対象に、絵本の選び方や読み聞かせの方法を紹介し、子供の読書の楽しさや大切さを伝える講座「子どもと絵本を楽しもう」や「赤ちゃんとなによもう会」を今後も継続して行います。また、公民館、児童センター、保育園等において、子供の読書への理解と関心を高める講座を実施します。

【目標指標】

指標名	現況(令和元年度)	目標(令和7年度)
児童センターにおける保護者向け講座の開催(単年度)	5か所	全9か所

⑫ 読み聞かせボランティア等の養成とスキルアップの支援

図書館では子供の読書活動を支える人材の育成を図るため、ボランティアの養成やスキルアップの講座を実施しています。各ボランティアグループは、図書館や公民館のほか、児童センター、学校、保育園等でもおはなし会や、ストーリーテリング^{※21}等の様々な活動を展開しています。



しかしながら、ボランティアの会員数は年々減少の傾向にあります。子育ての中で子供の本に出会い、家庭で子育てをしながらボランティア活動をするという形態から、出産後も仕事を継続する女性が増加し、ボランティア活動ができない状況が一般的になったことが要因と思われます。今後の養成講座では、シニアを対象を絞るなど、年代、内容、回数等、将来のボランティア活動に繋がりやすい講座に変更することを検討します。また、長年のボランティア活動では、モチベーションの維持と新しい知識の獲得が必要になりますので、今後もスキルアップ研修を継続します。

さらに、学校で活動するボランティアを支援するため、読み聞かせや本の補修等の研修会を開催し、連携と活動状況の把握に努めます。

【目標指標】

指標名	現況(令和元年度)	目標(令和7年度)
ボランティアを対象とした講座の実施回数 (単年度)	3回	3回以上

施策（８）学校司書等の継続と図書館情報館職員の育成

㉓ 学校司書の全校配置と図書館教育アドバイザーの配置

学校図書館が機能を十分に発揮していくためには、子供の読書相談等に対して専門的な対応ができる知識や技術を備えた司書教諭や専任の学校司書の配置、それをまとめる図書館教育アドバイザーが必要となります。



司書教諭については、学校図書館法によって、平成15年度から12学級以上の全ての学校に配置することが定められており、本市でも配置が完了しています。

学校司書については、平成25年度から配置されはじめ、令和元年度では29校中27名の配置となりました。しかしながら、まだ、2名兼務していますので、各学校1名の配置を目指します。

また、図書館教育アドバイザーは、学校司書をまとめ、学校図書館連携の中核となり、図書館情報館と学校図書館との連携も担うなど大変重要な役割を持ちますので、今後も配置を継続します。

【目標指標】

指標名	現況(令和元年度)	目標(令和7年度)
学校司書の配置	27名	29名 (全小中学校に専任1名)
図書館教育アドバイザーの配置	継続	継続

㉔ 図書館情報館職員のスキルアップのための研修

子供の読書活動を推進するためには、その役割を担う図書館情報館職員の育成が重要です。常に子供の置かれた状況や子供の本の情報、知識を獲得しサービスに生か

すために、館内の研修を今後も継続して実施します。

また、愛知図書館協会が主催する「児童サービス研修」や、国立国会図書館、日本図書館協会などの関連機関が行う研修にも積極的に参加し、その成果を子供の読書活動推進に役立てます。



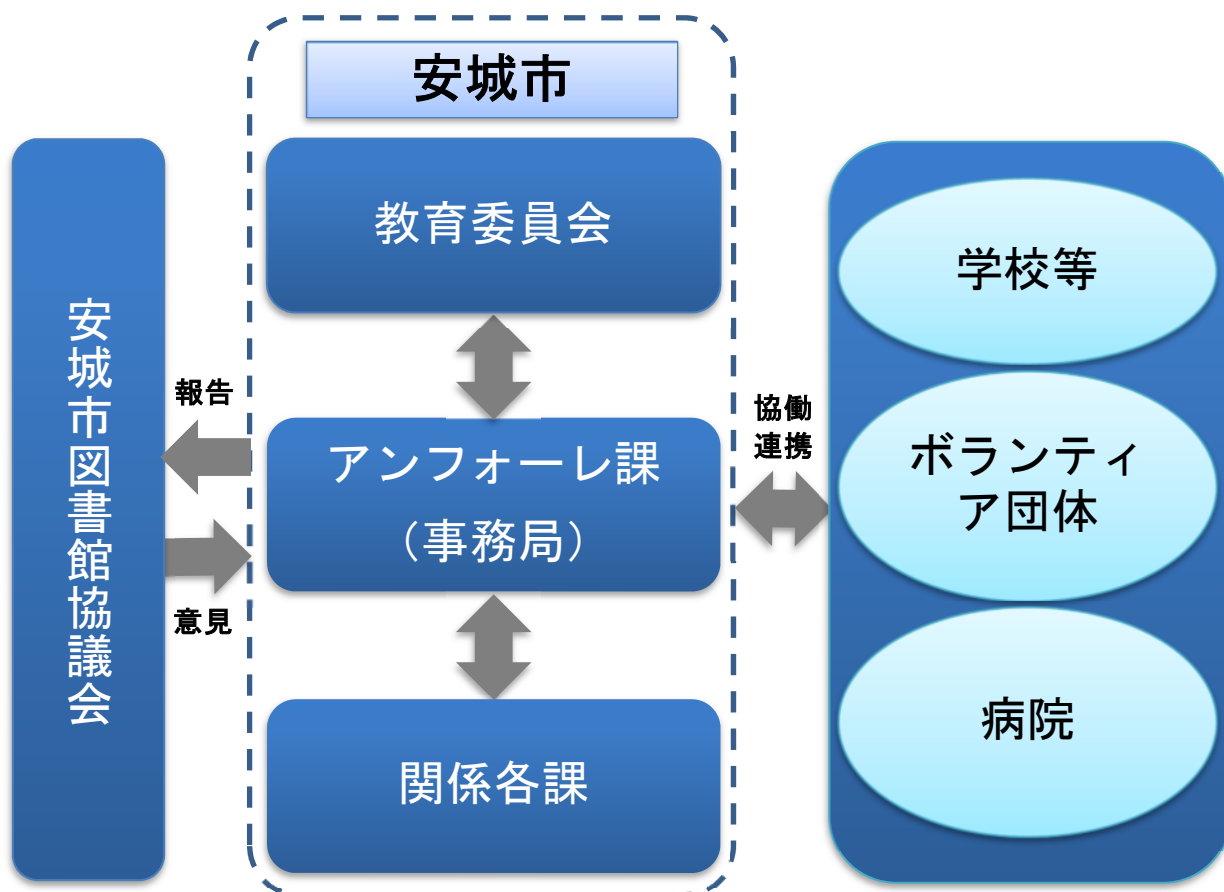
【目標指標】

指標名	現況(令和元年度)	目標(令和7年度)
全体研修の実施回数(単年度)	11回	11回

第4章 第4次推進計画の推進体制と進捗管理

1 計画の推進体制

計画を推進するためには、アンフォーレ課を中心に学校やボランティア団体など様々な関係団体との協働や連携を進めていく必要があります。



2 計画の進捗管理

社会教育・家庭教育・学校教育の各関係者、学識経験者、公募による市民等で組織する「安城市図書館協議会」※22に、今後も本計画の進捗状況を報告し、必要に応じて意見を求めるなど、子供の読書活動を総合的に推進していきます。

参考資料

1 計画策定までの経緯

年月日	内容
令和2年7月16日	第1回 第4次安城市子供読書活動推進計画作業部会 ・計画の概要について
令和2年8月7日	令和2年度第1回 安城市図書館協議会 ・計画の概要について
令和2年8月26日	第2回 第4次安城市子供読書活動推進計画作業部会 ・計画の基本理念、目標指標案について
令和2年9月23日	第3回 第4次安城市子供読書活動推進計画作業部会 ・計画の本編、概要版案について
令和2年11月6日	令和2年度第2回 安城市図書館協議会 ・パブリックコメント計画案について
令和2年11月19日	令和2年度第9回 教育委員会定例会 ・パブリックコメント計画案について
令和2年12月10日	市民文教部会 ・パブリックコメント計画案について
令和2年12月24日 ～令和3年1月24日	パブリックコメント実施
令和3年2月18日	令和2年度第12回 教育委員会定例会 ・パブリックコメントの結果報告について
令和3年3月15日	令和2年第3回 安城市図書館協議会 ・パブリックコメントの結果報告について
令和3年4月1日	第4次安城市子供読書活動推進計画公表

2 SDGsと第4次推進計画

第4次推進計画では、SDGsの目指す17の目標のうち「4 質の高い教育をみんなに」「10 人や国の不平等をなくそう」「17 パートナリーシップで目標を達成しよう」の3つの目標と関係づけています。

	質の高い教育をみんなに	基本方針1 家庭、図書館、学校等における読書活動の推進 基本方針2 読書環境の整備、関係機関等との連携・協力体制の整備 基本方針3 読書活動を支える人材の育成
	人や国の不平等をなくそう	基本方針1 家庭、図書館、学校等における読書活動の推進 基本方針2 読書環境の整備、関係機関等との連携・協力体制の整備
	パートナーシップで目標を達成しよう	基本方針2 読書環境の整備、関係機関等との連携・協力体制の整備 基本方針3 読書活動を支える人材の育成

3 第3次安城市子ども読書活動推進計画【進捗状況(令和元年度末現在)】

目標値

指標名①	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
0歳～6歳児の図書館利用者カード保有率	33.2%	38.1%	46.9%	53.0%	58.4%	50.0%

指標名②	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
地区公民館・児童センターでの「おはなし会」の参加人数	2,761人	3,140人	2,744人	3,322人	2,490人	4,200人

指標名③	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
図書館での「おはなし会」の参加人数	3,483人	2,827人	4,612人	5,131人	4,914人	3,700人

指標名④	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
本や図書館に興味を持てる事業数	8事業	6事業	8事業	8事業	7事業	9事業

指標名⑤	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
レファレンスサービスの件数	1,205件	1,173件	2,522件	4,403件	4,944件	1,600件

指標名⑥	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
「朝の読書」の実施	25/29小中学校 で週3回以上	27/29小中学校 で週3回以上	28/29小中学校 で週3回以上	26/29小中学校 で週3回以上	26/29小中学校 で週3回以上	全小中学校 で週3回以上

指標名⑦	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
保育園・幼稚園での「出前おはなし会」の開催回数	510回	505回	298回	304回	295回	550回

指標名⑧	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
「南吉出前授業」の開催回数	7回	5回	0回	1回	8回	8回

指標名⑨	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
電子絵本・電子図書の導入	検討	検討	導入	導入	導入	導入

指標名⑩	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
児童書の蔵書数	218,436冊	220,973冊	232,876冊	242,487冊	249,464冊	238,000冊
児童書の貸出冊数	708,895冊	637,556冊	693,801冊	734,318冊	733,453冊	720,000冊

指標名⑪	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
外国語の絵本・児童書の蔵書数	1,264冊	1,341冊	1,879冊	2,123冊	2,292冊	2,000冊
外国語の絵本・児童書の貸出冊数	956冊	979冊	3,041冊	3,342冊	3,056冊	1,300冊

指標名⑫	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
ティーンズコーナー(らBooks)の蔵書数	2,420冊	移転作業 のため 集計不可	17,720冊	19,584冊	20,586冊	20,000冊
ティーンズコーナー(らBooks)の貸出冊数	13,138冊		133,257冊	153,300冊	148,586冊	60,000冊

指標名⑬	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
児童書の蔵書数(公民館図書室等)	79,734冊	83,839冊	80,632冊	85,805冊	87,418冊	82,000冊
児童書の貸出冊数(公民館図書室等)	331,717冊	340,211冊	340,698冊	318,966冊	321,463冊	336,000冊

目標値

指標名⑭	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
学校図書館の「図書標準」達成校	小学校21/21校 中学校7/8校	小学校20/21校 中学校8/8校	小学校20/21校 中学校8/8校	全小中学校	全小中学校	全小中学校

指標名⑮	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
小学校への団体貸出利用冊数	33,447冊	25,649冊	107,732冊	102,186冊	114,708冊	50,000冊
中学校への団体貸出利用冊数	497冊	558冊	19,126冊	18,682冊	20,210冊	1,000冊

指標名⑯	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
関係機関との連携による事業数	12事業	13事業	17事業	14事業	15事業	12事業

指標名⑰	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
図書館に登録されている読書グループ・読み聞かせボランティアグループの会員数	330人	325人	252人	244人	234人	370人

指標名⑱	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
保護者向け講座の開催回数	3回	3回	0回	15回	22回	48回

指標名⑲	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
学校司書の配置	8名 (中学校区に1名)	21名	24名	25名	27名	29名 (全小中学校に専任1名)

指標名⑳	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
ボランティア養成・支援講座の開催回数	11回	15回	7回	22回	18回	29回

目標値達成

4 用語解説

1 らBooks

図書館初心者や中学生・高校生の読書支援のための資料を選定し、その資料群を「らBooks」と呼んでいる。安城独自のジャンルで、現在、「ヤングアダルト（中学生・高校生向け）」「キャリア（進路）」「話題の書・入門書」「英文多読」「再読（歴代ベストセラー）」「コミックス」の6つのジャンルがある。

「らBooks」の「ら」には以下の意味がある。

「Light（軽い、明るい、入門的な）Books」

手に取りやすい、読書への誘いとなる資料

「Like Books」

本を好きになってほしい、という図書館からのメッセージ

「Love Books」

本を愛し、人生を豊かに生きてほしい、という図書館からのメッセージ

2 児童書

赤ちゃんから中学生くらいまでの読書興味や読書レベルにあった図書。初めから児童向けに創作されたもののほか、古典や名作文学を児童向けに改作したもの、その一部を抽出したもの、用語・用字のみを平易にしたものなども含まれる。絵本、昔話、幼年文学、児童文学、伝記、科学の本、実用書、レファレンスブックなどに分けることができる。

本計画の統計では、これに紙芝居を合算した数字を用いる。

3 学校司書

学校図書館の運営の改善及び向上を図り、児童又は生徒及び教員による学校図書館の利用の一層の促進に資するため、専ら学校図書館の職務に従事する職員をいう。「学校図書館法」（平成27年改正）では、学校は学校司書を置くよう努めなければならないとされている。

4 図書館教育アドバイザー

学校図書館の連携や図書情報館と学校図書館との連携のため、学校教育課から派遣されている社会教育指導員。学校司書の研修や連絡調整、貸出のための本の選定も行っている。

5 読書通帳

子供の読書推進のため、貸出記録が印字できる通帳。図書情報館2階に読書通帳機2台を設置しており、画面操作すると、書名と価格が印字される。市内の中学生以下には無料で配布しているが、一般の希望者にも1冊300円で販売している。
(一通帳に216冊分印字可能)

6 電子書籍

印刷して図書の形で出版されていた著作物を、電子メディアを用いて出版したもの。電子書籍専用端末、コンピュータ、スマートフォンやタブレット型端末などの携帯端末を用いて閲覧する。電子書籍ならではの機能として、文字の拡大・縮小、音声読み上げやメモ機能が付いたものもある。障害をお持ちの方や来館できない利用者にとっては便利なものである。本市では市内在住者に限定し、一人3点まで2週間の貸出サービスをしている。期限が来れば自動返却となる。

7 デジタル絵本

図書情報館2階の貸出用iPadで閲覧できるナレーション・動画付きの絵本。館内視聴のみのサービス。現在「かちかちやま」「にんぎょひめ」などの20作品がある。

8 からくりBooks

安城の民話や偉人などを題材とした電子紙芝居。ナレーションとアニメでわかりやすく学べるだけでなく、タッチして動作するタブレットならではの「仕掛け」を楽しめる。「都築弥厚物語」「新美南吉物語」「山崎延吉物語」「松平清康物語」「石川丈山物語」「岡田菊次郎物語」の6コンテンツを所蔵している。

9 フロアワーク

カウンター（サービスデスク）以外のサービスフロアで行われる、利用案内、読書案内、レファレンスサービス、読み聞かせ、ブックトーク、その他の利用者サービスの総称。職員的人的援助を受けられることを知らない利用者に対して有効である。

1 0 レファレンスサービス

利用者が資料や情報を探したり、調べたりするのを手伝うサービスのこと。図書館資料を用いた情報提供や、情報の有る所のアドバイスなどがある。

1 1 ^{うちどく}家読

家読は、「家庭読書」の略語で「家族ふれあい読書」を意味し、「家族みんなで読書をすることで家族のコミュニケーションを深める」ことを目的にした読書運動。

1 2 安城版ブックスタート

子供の読書推進と子育て支援を目的に、平成25年8月から保健センターの4か月児健診終了後に実施している。平成30年に発行した第2回新美南吉絵本大賞の大賞作品『かにのしょうばい』と赤ちゃん向け絵本1冊（平成30年度から令和2年度までは『あそび』『だるまさんが』『どうぶつのおかあさん』『のせてのせて』から選ぶ）、南吉バッグを対象市民の保護者一人一人に、主旨説明、読み聞かせの実演とともに配付している。南吉の説明と南吉絵本を配付しているため、「安城版」と呼んでいる。

1 3 排架

図書館資料を、その請求番号などの所定の排列順序に基づいて、書架に並べること。資料が正当な位置に排架されることにより、その資料が利用可能となる。

「配架」と「排架」の違いについては、「配」は割り当てという意味があり、「排」は一定の順序で連ねるという意味を持つ。図書館資料は分類順に一定の法則で並べることから「排架」を用いている。

1 4 図書標準

文部科学省により、公立義務教育諸学校の学校図書館に整備すべき蔵書の標準として、平成5年に定められたもので、各小中学校の学級数に応じて蔵書冊数が算定される。

1 5 指定管理者

地方公共団体が設置する文化施設などの公の施設の管理、運営を行う株式会社やNPOを含む民間事業者のこと。指定管理者の指定は自治体の長が条例で定め、許可を与える。

1 6 パスファインダー

特定のテーマについて、調べる時に役立つ基本的な資料・情報源及び情報の探し方・調べ方を紹介した簡易的な手引き

1 7 ふれあい学級

安城市における適応指導教室。不安や悩みがあり、学校に行けない状態あるいはその傾向のある子供が、自立心や集団適応力を高め、学校復帰や社会的自立を目指す学級。

1 8 朝の読書

学校において毎朝始業前の10分程度の時間を利用して、全校の児童生徒と教師が一斉に自分の好きな本を読むという読書推進活動。各教科の授業時の集中力の向上や、子供の情緒の安定などさまざまな教育的効果も報告されている。

1 9 政策支援サービス

市議会議員や市職員等の政策立案・決定や行政事務に必要な情報収集を支援するサービス。

また、行政課題解決のためのレファレンス機能を強化するとともに、安城市役所関係各課で必要とされる資料のリクエスト制度を導入し、各課の持つ専門知識を図書館の選書に役立てている。

2 0 書誌データ

資料そのものから得られる、著者、タイトル、出版に関する事項、形態に関する事項、その他の事項から構成される1点ごとの資料を識別するためのデータ。

2 1 ストーリーテリング

語り手が本も何も持たずに、ことばだけでお話を語ること。「素話」とも言われる。

昔話や創作童話が多く語られ、耳からの読書として、図書館における児童サービスのひとつである。

2 2 安城市図書館協議会

図書館の運営に関し館長の諮問に応ずるとともに、図書館の行う図書館奉仕につき、館長に対して意見を述べる機関。図書館法第14条に基づいて設置され、本市では条例で「委員の定数は10人以内」と規定し、年3回開催している。

〈参考文献〉

- 1 安城市アンフォーレ課 Guide Book－中高生編－ p 2
- 2 安城市アンフォーレ課 平成 30 年度図書館概要 p 65
- 3 安城市アンフォーレ課 令和 2 年度図書館概要 p 23
- 4 安城市市民生活部アンフォーレ課 安城市図書館運営基本計画【2020 年度～2029 年度】
- 5 安城市市民生活部アンフォーレ課 p23
- 6 日本図書館協会編 図書館用語集 四訂版 日本図書館協会 p253
- 7 日本図書館情報学会用語辞典編集委員会 図書館情報学用語辞典 第四版
p3, 36, 94, 96, 116, 164, 196, 199, 219, 255
- 8 安城市アンフォーレ課. “安城市図書館協議会” 安城市図書館情報館. 2020-09-03
http://www.library.city.anjo.aichi.jp/plan_report/plan/toshokankyogikai/index.html
(参照 2020-09-28)
- 9 安城市アンフォーレ課 “カラクリ BOOKS” 安城市図書館情報館 2020-08-19
http://www.library.city.anjo.aichi.jp/book/shiryo/kyodo/karakuri_books2.html
(参照 2020-09-28)
- 1 0 安城市アンフォーレ課 “デジタルえほん” 安城市図書館情報館 2017-10-26
<https://www.library.city.anjo.aichi.jp/book/degital-ehon.html>
(参照 2020-09-28)
- 1 1 安城市アンフォーレ課 “図書館情報館の施設案内” 安城市図書館情報館 2020-02-22
<http://www.library.city.anjo.aichi.jp/annai/shisetsu/index.html>
(参照 2020-09-28).
- 1 2 飯塚市立図書館 “家読” <http://www.iizuka-library.jp/utidoku/utidoku.html>
(参照 2020-09-28)
- 1 3 教育振興部学校教育課研究係 “安城市適応指導教室”
<https://www.city.anjo.aichi.jp/manabu/gakko/documents/hureai-leaflet.pdf>
(参照 2020-09-28)
- 1 4 文部科学省 “学校図書館”
https://www.mext.go.jp/a_menu/sports/dokusyo/hourei/cont_001/016.htm
(参照 2020-09-28)

第4次安城市子供読書活動推進計画

(計画の期間：令和3年度～令和7年度)

発行 愛知県安城市

編集 安城市市民生活部アンフォーレ課

〒446-0032 安城市御幸本町 504 番地 1

TEL0566-76-6111 FAX0566-77-6066

電子メール: tosyo@city.anjo.lg.jp

URL: <http://www.library.city.anjo.aichi.jp/>
